

町制施行50周年 武田修宏氏と本町の意外な関係

11月26日から27日にかけて、本町の町制施行50周年を記念し、元サッカー日本代表でタレントとして活躍する「武田修宏」氏を招いた講演会およびサッカー教室が行われました。

講師の武田氏は、本町の歴史遺産である勝山館を築いた武田信廣と同名同姓であり、偶然にも町制が施行された年と同じ昭和42年生まれであることなど、町民の皆さまに本町の歴史と町制施行50周年を再認識していただくために選定されました。

26日の講演会は、「夢をかなえる生き方」と題し、武田氏の半生を振り返りながら、サッカー日本代表になるという小学生の頃から夢をかなえる為に、どう時間を使いどう過ごしたか、どのような心構えが大切だったかを、会場に集まった約250名の前で講演しました。

武田氏は、「決して恵まれていたわけではない」とした上で、「だからこそ自分でできることは自分でできるような努力し、自分だけでできないことは仲間との絆で成し



遂げて来た」と話すなど、努力と仲間の大切さを説いていました。そして、同時に行われたパネルディスカッションにおいては、郷土の大きな転換点とも言える武田信廣の時代から、町制施行から50年までの歩みを振り返りながら、武田氏は「これも何かの縁、番組等で機会があれば上ノ国町をPRしていきたい」と話していました。翌日27日には、本町と江差町の子ども達が所属するコラソンの等から53名が参加したサッカー教室が行われました。

参加したサッカー少年達は、元サッカー日本代表選手という『ホンモノ』から教えるを受ける貴重な機会に、当初はいつにも増して緊張した面持ちでしたが、武田氏の朗らかな人柄もあり、すぐにリラックスして練習していました。最後に行われた試合形式の練習では武田氏もプレーし、卓越したボール捌きを披露すると、子ども達や観客から歓声が上がりました。サッカー日本代表の貴重なプレーを目にすることができました。

新吉堀トンネル開通



11月30日、道道江差木古内線で工事が進められていた『新吉堀トンネル』が完成し、主要道道江差木古内線整備促進期成会主催による開通祝賀会が執り行われました。新吉堀トンネルは、急カーブや急勾配が続く危険な区間の解消や、完成から55年が経過し、大型車輛の交差が困難となっていた旧吉堀トンネルの問題点を解消する目的で、平成25年から工事が進められていました。

開通祝賀会には、道や関係各町の代表者が集まり、開通を記念したテープカットのほか、先導車に続いて式典参加者の車列がトンネルを走り初めし、今後の安全を祈願して開通を祝いました。

上高に古着2500着集まる！

3キロ連携で難民支援

11月22日、上ノ国高校が株ユニクロと連携して難民キャンプを支援する『服の力』事業を今年も行いました。

この事業は、使われなくなった古着を集め、寒さの厳しくなるこれからの季節に、難民キャンプへ届けることを目的に、9月より町内各学校や一般家庭に対して協力を呼びかけていました。

今年度は高校に直接古着が届けられるケースもあるなど、この事業が着実に浸透してきている印象で、その結果、昨年の1500着を上回る2500着が集まりました。

生徒達は、冬を前に衣類を待っている難民キャンプの子どもの姿を想像し、届けられる衣類に一部修繕を加えるなど準備を進め、12月中旬にユニクロを通して難民キャンプへの送付が完了しました。この難民支援事業は今後も継続して行われる予定で、今年も皆さんの協力をお願いしたいとのことでした。

